

## 連載

## 社会と健康を科学するパブリックヘルス(14)

### 最終回「社会における公平な健康の実現を目指して」

東京都健康長寿医療センター研究所 石崎 達郎

本連載では13回にわたって、複雑化した社会・環境と人々の健康に関する最新の知見や取り組みを紹介してきました(表<sup>1~13</sup>)。

連載の第1回目にあるように、公衆衛生(Public Health)は社会における公平な健康の実現を目指す学問であり実践です。そして、医学・医療の進歩と人々を取り巻く環境の変遷に対応すべく、「New Public Health」という言葉が用いられています<sup>14</sup>。そこで本稿では以下、これを「パブリックヘルス」と表現します。

パブリックヘルスは、従来から公衆衛生の中核をなす健康増進、1次予防、2次予防、3次予防に加え、健康政策とヘルスシステムマネジメントで構成されます<sup>14</sup>。保健・医療・介護といった生涯にわたる様々な場面において、1)疾病の予防や健康増進、2)疫学や医療統計学をはじめとする方法論的基盤の整備と適切な利活用の促進、3)健康・医療政策から医療の実践を対象とするヘルスサービス研究を通じたより良い保健・医療提供の提言と政策への還元、4)基礎研究の臨床応用で予測される安全面・医療倫理面や規制上の諸問題の察知とその解決への手立ての提言、等々、パブリックヘルスは身近で重要な科学です。

ここで本連載であまり触れられなかった、パブリックヘルスの専門職教育について、簡単に紹介します。

わが国のパブリックヘルス専門職の大学院教育の場として、2000年にわが国初の公衆衛生大学院(School of Public Health, SPH)が京都大学に開設され、翌2001年には九州大学に医療経営・管理学に特化したSPHが開設されました。文部科学省が高度専門職業人の育成を目的とする専門職大学院を2003年に創設すると、SPHは専門職大学院に位置づけられました。その後、東京大学と帝京大学にSPHが開設されたほか、大阪大学、筑波大学、岡山大学等の大学院には専門コースが設置されました。東京大学と長崎大学には国際保健に特化した大学院が開設されています。

表 社会と健康を科学するパブリックヘルス

- 
- 21世紀の課題と New Public Health<sup>1)</sup>
  - ソシオエピデミオロジー(社会疫学)とは何か<sup>2)</sup>
  - 環境疫学のコミュニケーション<sup>3)</sup>
  - 地球規模の大気輸送モデルと毒物動態モデルの統合による曝露予測モデルの開発<sup>4)</sup>
  - タバコ対策の変遷とその効果<sup>5)</sup>
  - 高齢者による医療資源の利用<sup>6)</sup>
  - データに基づく地域医療政策・病院政策<sup>7,8)</sup>
  - 健康情報学の展開<sup>9)</sup>
  - バイオ知財基礎知識—ビジネスを通じて公衆衛生の向上を図る—<sup>10)</sup>
  - 医学研究倫理指針の問題点<sup>11)</sup>
  - 予防医療<sup>12)</sup>
  - 疫学研究と臨床研究の接点<sup>13)</sup>
- 

米国では、1916年、Johns Hopkins 大学に SPH が開設されたのを皮切りに、現在、全米に47の SPH があります。規模の大きい SPH では、毎年、200名を超える公衆衛生学修士(Master of Public Health)を輩出しています。

米国の SPH は、わが国のパブリックヘルス専門職教育という点で、参考となる点が多々あります。例えば、米国公衆衛生大学院協会は2006年に公衆衛生学修士課程で習得すべき中核的能力(core competency)を設定しました<sup>15)</sup>。この中核的能力は、5つの領域別能力(生物統計学、環境保健学、疫学、健康政策管理学、社会科学・行動科学)と7つの学際的・分野横断的能力(コミュニケーションと情報学、多様性と文化、リーダーシップ、公衆衛生生物学、プロフェッショナルリズム、プログラム計画、システム思考)で構築されています。わが国の SPH は、前者の5領域の中核的能力を涵養するために、これらをコア科目に位置付けています。

学際的・分野横断的能力の一つ、システム思考(system thinking)は、もともとは経営管理の領域で複雑化した問題を取り扱い、解決する技法として採用されたものでした<sup>16)</sup>。企業経営で用いられてい

るシステム思考の知識・技法が、パブリックヘルスの実践で直面する複雑な問題を解決する際に必要とされています。

繰り返しになりますが、「社会における公平な健康の実現」はパブリックヘルスのミッションです<sup>1)</sup>。ニーズの異なる人びとに対し、限りあるサービスを公正に配分するには、大きな困難を伴う場合が多々あります。資源の公平な配分は、パブリックヘルス実践者に限らず、医療や介護の現場で日常的に直面する課題の一つです。公平性とは何かを理解し、実践につなげるためには、社会科学、特に倫理学や哲学の知識を活用することが必要とされます。昨今、大きな反響を呼んだ正義論<sup>17)</sup>や第70回日本公衆衛生学会総会で取り上げられた公共哲学は、哲学・倫理学の研究に用いるだけではありません。パブリックヘルス実践者が社会の動きや人々の考えを理解し、公正性・公共性を熟慮しながら、地域の問題解決への手立てを見つめる際に必要です。このような視点を持つパブリックヘルスの専門職が、今後さらに必要となることは、予想に難くありません。

パブリックヘルス専門職は、人びとの生活の営みを温かいまなざしで見つめるとともに、客観的視点で地域社会を分析・評価し、健康の維持・向上につなげていくことが求められます。社会における人間の健康に関わる諸問題を探知・評価・分析・解決するために、そして、学際的な知識と技術を備え、複眼的視座を保ちながらパブリックヘルスを実践するためには、更なる自己研鑽と人材育成、そして研究の発展が求められています。

連載を終えるにあたり、この連載がパブリックヘルスの幅広い守備範囲を再確認していただく際の一助となりえましたら、連載企画者としてこの上ない喜びです。一年間の連載にお付き合いいただきました読者の皆さま、連載に御支援いただいた編集委員会や事務局の皆さま、そして執筆を御担当いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

## 文 献

- 1) 木原正博. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(1): 21世紀の課題と New Public Health. 日本公衆衛生雑誌 2010; 57: 1094-1097.
- 2) 木原雅子, 木原正博. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(2): ソシオエピデミオロジー(社会疫学):

その方法論的特徴と実践例について. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 58-61.

- 3) 山崎 新. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(3): 環境疫学のコミュニケーション. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 138-141.
- 4) 新添多聞, 原田浩二, 小泉昭夫. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(4): コンピューターシミュレーションによる環境中化学物質のヒト曝露評価法. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 209-211.
- 5) 里村一成, 岩永資隆, 野網 恵, 他. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(5): 日本におけるたばこ対策の変遷とその効果. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 311-315.
- 6) 大坪徹也, 今中雄一. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(6): データに基づく地域医療政策・病院政策. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 391-394.
- 7) 猪飼 宏, 今中雄一. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(7): データに基づく地域医療政策・病院政策. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 471-473.
- 8) 石崎達郎. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(8): 高齢者の医療費. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 560-563.
- 9) 中山健夫. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(9): 健康情報学の展開. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 640-645.
- 10) 早乙女周子. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(10): バイオ知財基礎知識: 産学連携を通じて公衆衛生の向上を図る. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 810-813.
- 11) 小杉真司. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(11): 医学研究倫理指針の問題点. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 909-912.
- 12) 川村 孝. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(12): 予防医療. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 985-988.
- 13) 上嶋健治. 社会と健康を科学するパブリックヘルス(13): 疫学研究と臨床研究の接点. 日本公衆衛生雑誌 2011; 58: 1060-1063.
- 14) Tulchinsky TH, Varavikova EA. What is the "New Public Health"? Public Health Reviews 2010; 32: 25-53.
- 15) Calhoun JG, Ramiah K, Weist EM, et al. Development of a core competency model for the master of public health degree. American Journal of Public Health 2008; 98: 1598-1607.
- 16) 西村行功. システム・シンキング入門. 東京: 日本経済新聞社, 2004.
- 17) Sandel ML. Justice: What's the Right Thing to Do? New York: Farrar Straus and Giroux, 2009. [サンデル ML. これからの「正義」の話しよう(鬼澤 忍, 訳). 東京: 早川書房, 2010.]